発行日 2026 年 7 月 31 日

世界の恵まれない子供達に学ぶ機会を！学ぶ喜びを！

SCOLA

Vol 19

認定 NPO 法人
LS スコラ育英基金
〒156-0055 東京都世田谷区船橋 1-28-13-101
☎:080-3265-5073
メール scola@ls-scola.jp ホームページ https://ls-scola.jp/
郵便振込 00100-0-767496 特定非営利活動法人 LS スコラ育英基金

【理事長退任にあたって】

5 月 23 日に開催した通常総会で、理事 5 名、監事 1 名全員の役員が重任され、加えて新たに理事 3 名が選任されました。続いて 6 月 1 日の理事会において理事長、副理事長の互選が行われ、私と松﨑副理事長が退任することになりました。また、佐藤仁宣理事が事務局長に選任されました。理事長在任中の 6 年間にあっては、国際情勢は激変し、紛争や気候変動、感染症等で弱い立場にある子供たちの生活環境は悪化する一方でした。私たちが支援したプロジェクトでも、新型コロナウイルスで生活が困窮したアジアの学生とその家族に対する食糧支援（2020 年度）、軍事政権によるミャンマーの国内の避難民に対する緊急支援（2022,2023 年度）、ロシア侵攻によるウクライナ避難民に対する緊急支援（2022 年度）などがありました。支援をする側では、寄付されている方々及び役員の高齢化が著しく、当基金創設当時からご支援いただいた方々が亡くなられるたびに深い哀しみを覚えます。この 6 年間の寄付推移でも 153 名 275 万円から 138 名 243 万円に減少しておりますが、当基金の活動理念である「聖ラ・サールの精神」（学びたくても学べない子供等を救おう）と「教育」は新体制の下でもぶれることなく永続的に発展させていただきたいと願っております。

紺野新理事長は、理事就任の 2022 年以前から社員及び事務局として当基金の活動を支えてくださった仲間であり、これまでは主に広報を担当してこられましたが、包容力のある方で、理事長として信頼できる方です。小林新副理事長も、行動力のあるスポーツマンで、これから多くの新基軸を打ち出してくださるのではないかと期待しております。新体制のもと、引続き支援してくださる皆様とのコミュニケーションを大切にしながら、鹿児島・函館両ラ・サール同窓会との良好な関係が構築できるよう努めてまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

`（前理事長　宇野哲人）

【副理事長退任にあたって】

2020 年からの副理事長職を退任致します。この 6 年間、「世界の子供たちに学ぶ機会を！　学ぶ喜びを！」を目指して活動して来ました。2024 年の黒木事務局長急逝後は、ローマ本部との寄付先調整や送金、ラ・サールホーム出身者への奨学金振込みも担当しています。今後も理事として残ってこの業務を担当し、微力ながら LS スコラ育英基金の運営・発展に尽くしたいと思います。

（前副理事長　松﨑潤一）

【総会の開催 】

2026 年度の通常総会は、5 月 23 日（土）10 時から港区新橋の航空会館で zoom 会議を併用して行われました。 正会員は、会場出席 3 名、zoom での出席 1 名、書面表決・委任状での出席 6 名で 10 名が出席し 1 名が欠席となりました。今回の総会では役員の任期満了に伴う改選を行い、前年度の理事 5 名、監事 1 名が再任され、新たに 3 名の理事が就任されました。また 6 年間勤められた宇野哲人理事長と松崎副理事長が退任され、新理事長として紺野晃則、新副理事長として小林寛重が就任しました。 主な議事内容は以下の通りです。

■第 1 号議案：2025 年度事業報告・決算

・ 2025 年度、皆様からいただいた寄付金の総額は 2,427 千円で、前年度に比べ 331 千円減少しました。寄付いただいた皆様は 138 名で前年度に比べ 7 名の減少となりました。口座引落終了期限を迎えた方は 5 名おられました。長年のご支援に感謝いたします。また、ご逝去された方には心よりお悔やみ申し上げます。

・ 2025 年度の事業費合計額は、3,379 千円で受取寄付金の 139%となっております。寄付金をできるだけ効率的に支援金に回して繰越金を減らしていくことが、寄付いただいている皆様のご意向に即しているとの考えに基づくものです。寄付先としては、仙台ラ・サール・ホーム出身の大学生・専門学校生 3 名に対する奨学金 360 千円、ケニアの職業訓練校に対するソーラーシステム設置資金に 1,448 千円、カンボジアのベトナム出身の生徒たちに対する給食代 1,564 千円を支援しました。

・ 管理費は諸物価高騰の中ではありましたが、節約に努めた結果前年度比微減に収まりました。その結果、当期正味財産額は 1,507 千円円減少して、次期繰越財産額は 12,882 千円となりました。

2025 年度決算と 2026 年度予算　（単位：千円）

科目	2025 年度決算	2026 年度予算
Ⅰ 経常収益	2,433	2204
受取寄付金	2,427	2200
受取利息	6	4
Ⅱ 経常費用	3,940	5,219
事業費計	3,379	4,519
支援寄付金	3,372	4,512
送金手数料	7	7
管理費計	561	700
業務代行手数料	276	327
通信費	53	60
自動引落手数料	47	50
賃借料	101	120
その他経費	84	144
Ⅲ 当期正味財産増減額	△1,507	△3,015
Ⅳ 前期繰越正味財産額	14,389	12,882
Ⅴ 次期繰越正味財産額	12,882	9,867

■第 2 号議案：2026 年度事業計画・予算

・ 受取寄付金は、寄付者の高齢化に伴う総額の減少を見込み、2,200 千円を計画しました。

・ 事業費合計額は 4,519 千円で、受取寄付金の 205%となっております。寄付先としては、奨学金として仙台ラ・サール・ホーム出身の大学生 1 名に対する 120 千円のほか、新たに鹿児島市の児童養護施設「愛の聖母園」出身の大学生及び専門学校生 2 名に対し、入学一時金を含め 840 千円を計画しています。また、ふじのくに留学生ツアーに対する運営資金支援として 150 千円、海外案件としては、引続きカンボジアのベトナム出身の生徒たちに対する給食代 1,780 千円と新規にコンゴ民主共和国農村部の弱い立場にある少女たちに専用の奨学金プログラムを

設けて、学費•教材•衛生用品等の支給支援として 1,620 千円を計画しております。

・ 管理費は、認定作業のための諸経費の増加に加え業務代行手数料の増額改定もあり、前年度を上回る 700 千円を見込みました。その結果、当期正味財産額は 3,015 千円減少して、次期繰越財産額は 9,867 千円となりました。

■第 3 号議案：2026 年度の役員

・ 2026 年度の役員は、理事 5 名及び監事 1 名は全員再任され、新たに 3 名の理事が新任しました。また 2026 年 6 月 1 日に開催された理事会において 2026 年度の新体制が承認されました。

理事長	紺野晃則	再任	
副理事長	小林寛重	新任	
理事	中村勝洋	再任	
理事	大阪恒悦	再任	
理事	松崎潤一	再任	
理事	宇野哲人	再任	
理事	佐藤仁宣	新任	（事務局長兼務）
理事	山村延郎	新任	
監事	岡田利雄	再任	

以上、全ての議案が全会一致で承認されました。

なお、海外の支援事業 2 件は 5 月に実施済です。　　（理事•事務局　宇野哲人）

【理事長就任の挨拶】

このたび理事長を拝命した紺野晃則（函館 8 期）です。大役を仰せつかり身の引き締まる思いですが、精一杯頑張りますので、どうぞ宜しくお願いします。

私は機関誌「SCOLA」第 1 号の発刊から LS スコラ育英基金の活動に一貫して広報担当の事務局として参加していました。NPO 法人となって中村勝洋初代理事長、宇野哲人前理事長、2024 年に急逝された黒木秀敏前事務局長の理念、思いを皆様にどうお伝えするかと苦慮した記憶があります。皆様にとって分かりやすい基金運営を目指したいと思いますので、ご協力のほど宜しくお願いします。

当基金は、活動の基盤を鹿児島・函館の両ラ・サール高校の卒業生で支えられており、支援先の選定や支援後のフォローではローマにあるラ・サール会本部との連携を密にしています。

ローマのラ・サール会総本部は

・ 世界の 5 地区の組織（北米、アジア・オセアニア、欧州・地中海、アフリカ、ラテンアメリカ）
　日本のラ・サール会はアジア・オセアニア地域：PARK の中にある LEAD 管区に属しています

・ 事務局・サービス部門（3 つの事務局と 2 つのサービス部門）で構成されています。

当基金が主に情報を交換しているのは事務局の中にある Solidarity and Development の SECOLI という組織になります。

今年のラ・サール会本部の狙いは、『**AI や SNS が加速する分断の時代に、教育を通じて「人と人」「人と地球」のつながりを回復し、特に貧しい人々や周縁にいる人々に寄り添う預言的な教育共同体を築くこと**』とあります。戦争という言葉が絶えず報道される中で、戦禍に遭われた人達

の苦しみや悲しみを思わずにはいられません。その中で「教育」という言葉が少しでも明るい光となって輝いてくれることを祈ります。

今年は東京都認定 NPO 法人の認定更新の時期にあたります。当基金の目的、目標、支援していただける皆様の気持ちなどを改めて認識しながら基金運営に当たりたいと思いますので、ご協力のほど宜しくお願いします。（理事長　紺野晃則）

【副理事長就任の挨拶】

このたび副理事長を拝命しました鹿児島 LS21 期小林寛重です。

基金の目的は、全世界の恵まれない青少年に対して、教育の機会を与え、以て人類の平和と繁栄、貧困の追放に寄与すること目的とする、とあります。すなわちその基本は、私が卒業したラ・サール高等学校の創始者である聖ラ・サールの教えを、一人のラ・サール OB として実際に着実に実践する、ことと理解しています。

基金は 2002 年に設立され、すでに四半世紀経過しています。2009 年には基金を法人化し同窓会組織から独立して「NPO 法人　LS スコラ育英基金」に改組、2016 年には東京都の認可により認定 NPO 法人となりました。これにより寄付金の免税措置を受けることが可能となりました。

私といたしましては、この NPO 法人の崇高な活動を、鹿児島・函館 LS の OB を中心に一人でも多くの方々に広報し理解していただき、以て NPO 法人の活動の厚みを広げていくことを私の使命として自覚し、微力ながら活動して参る所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

（副理事長　小林寛重）

【 奨学生からのお便り 】

A さん

大学生活もあっという間に、折り返し地点となりました。
講義のほうも専門科目に移行し、実験結果とにらめっこする日々が増えてきました。
院試に向けて勉強したり、来年から研究室配属されたりと、これまでとは違った忙しさになると思いますが、バイトも織り交ぜつつ余暇も楽しみたいと思います。

B さん

2 年間支援いただき本当にありがとうございました。
私はアルバイトでしか自分の生活資金を調達することができず、本当に LS スコラ奨学金に助けていただきました。
後輩の皆様の勉学のためにも、この制度が残ることを願っております。

＜編集後記＞

・SCOLA は今年度理事と社員の役割変更をし、少しだけ若くなりました。
・東京を拠点に都の認定 NPO 法人として、当初から目指している全世界の恵まれない青少年への育英資金の交付などの活動は継続するとともに、新たな支援活動も実施します。
・寄付や活動への皆さんの支援を期待します。（理事•事務局長 佐藤仁宣）e-mail:scola@ls-scola.jp